２０２１．５．３１
地鎮祭とオープニングセレモニー
森紘一

第３回奥阿賀国際アートフェスタのオープニングと通常総会に合わせて、５月 29 日（土）、久しぶりに豊実を訪問した。さすがに人出もクルマも少なく、小宮さんに乗せていただいたおかげで、10 時半前に和彩館に到着した。「おかえりなさい」といういつものマキ子さんの明るい声と、「早かったね」という佐藤さんの笑顔に迎えられる。ほどなく桐山さん、美紀さんも到着した。

さっそく、阿賀町から借り受けた「縄文アートミュージアム」を見にいった。あたりの風景は一変していた。建物背面の杉林は大きく切り取られるように伐採されて、丸太が整然と積み上げられている。建物際には裸にされた大木（楠木だろうか？）がトーテムポールのように際立っている。

加藤さんが持ち込んだという太陽光パネルは６枚、建物の壁面に斜めに並んで、まるでアート作品のようだ。館内一階のサロンにはレプリカの火焔土器が並べられ、窓越しに阿賀野川と赤い船渡大橋が眺められる。しばし、ゆったりとした気分に浸ることのできる空間となっている。２ 階の各部屋にも佐藤さんの作品が並べられているが、まだまだ未整備状態となっている。

昼食後、ストーンサークルの会場を飾る巨大石を見にいった。悠々亭の手前の道路側にあるそれは、いかにも巨大で重そう。すでにくさびを打ち込んであり、二つに割って会場に運び、加工するという。その後、佐藤さんと飯野さんがクレーン車やフォークリフトを駆使して試みたが運び出すことはできなかった。

プロの業者に頼んで、何とか 6/19（土）の縄文対談までには運び出したいと佐藤さんは執念を燃やしている。我われも、この原石がストーンサークル会場に納まる姿を想像するだけでワクワクする。

新規会員とまちづくり学校の応援隊を加えた夕食は、和気あいあいの集会と

なった。

翌朝（5/30)、全員６時起きで 10 時からはじまる地鎮祭やオープニングセレモニー、午後からの総会準備などにあたることになった。

ストーンサークル会場は縄文村構想につながる、それだけに隣接する縄文アートミュージアムの開設と合わせて、工事と建物の安全・繁栄祈願の地鎮祭は大事なイベントであった。

小雨のぱらつくなか、お招きした宮司の鄭重な祝詞奏上、参列者の玉串拝礼も無事すんで、一同は小道を登ってオープニングセレモニーの会場へむかった。

縄文アートミュージアムの裏山に、ヘリポートにもなる広い平地がある。高台で視界の開けたこの地は、小林達雄先生が視察に見えたお墨付きの場所である。

第３回奥阿賀国際アートフェスタのオープニングセレモニーには、来賓の皆さまの祝辞が続いた。さらに、阿賀町教育委員会教育長の遠藤佐様から縄文についてお話をいただいた。会場には、いつの間にか４０人近い人が集まり小雨も止んでいた。さながら、縄文についての青空課外授業といった風景となった。

最後に、6/19（土）10～　加藤春一様と佐藤賢太郎の「縄文対談」が縄文アートミュウジアムで開催されることをご案内して散会となりました。